

# The Whisper from Amherst

## エミリーのささやき

エミリーは‘a look of Agony(苦悶の表情)’が好きだと言っています。一瞬「えっ？」と聞き返したくなるフレーズですが、最後までどうぞお読みください。

エミリーは別の詩で歓喜について書いていますが、歓喜とは苦悶あつてのもので、そこに人間の真実があると言っています。しかもエミリーは距離をおいて冷静に「苦悶」の表情が見せかけなのか真実なのかを見定める態度を保っています。当時のロマン派詩人(シェリー、ワーズワース)のように大げさに声高らかに表現することよりも、真実であることがエミリーにとって大切であったのです。

‘I like a look of Agony,’

**I like a look of Agony,**  
わたしは苦悶の表情が好き、

**Because I know it's true —**  
真実なのだと分かるから —

**Men do not sham Convulsion,**  
人は痙攣(けいれん)の真似などしない、

**Nor simulate, a Throe —**  
劇痛を、装ったりもしない —

**The Eyes glaze once — and that is Death —**  
いったん眼がかすんできたら — それはもう死です —

**Impossible to feign**  
見せかけることなどできはしない

**The Beads upon the Forehead**  
質朴(しつぽく)な苦悩をつらねた

**By homely Anguish strung.**  
額の汗のじゅず玉を。